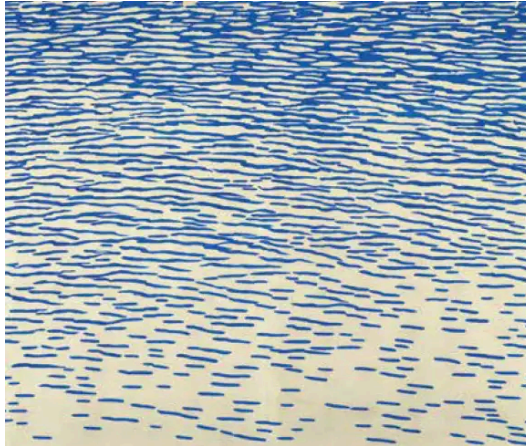


「没後50年 福田平八郎」開催のお知らせ

Fukuda Heihachiro:
A Retrospective2024.5/18 sat-7/15 ^[holiday] mon

大分県立美術館 3階 展示室B

| 前期 | 5月18日[土] - 6月16日[日]

| 後期 | 6月18日[火] - 7月15日[月・祝]

*会期中に展示替えが行われます（一部作品は上記期間以外にも展示替えを行います）

| 休館日 | 6月17日[月]

没後
50年 福田平八郎

【展】 昭和7年（1892）大分中之島美術館 重要文化財 展（2024年5月18日）

大分県立美術館では、大正から昭和にかけて活躍した日本画家・福田平八郎の没後50年を記念した回顧展を開催します。

大分市に生まれた福田平八郎（1892～1974）は、18歳のとき京都に出て京都市立美術工芸学校を経て京都市立絵画専門学校に学びます。1919年に第1回帝展に初入選し、次いで第3回帝展に出品した《鯉》が特選を受賞。迫真の写実表現が注目を浴び、一気に画壇の寵児となります。以後も官展系の画家として活躍するなかで、桃山時代の障屏画や琳派の伝統的な画風を研究し、写生を基本としながら形態の単純化をおすすめします。やがて豊かな色彩と奇抜な画面構成による独特の装飾表現を志向し、1932年に《漣》を発表。その大胆な挑戦で人々を驚倒させました。戦後は、《新雪》、《雨》、《水》など、徹底した自然観照によりながらも、色や形、視点や構成に趣向を凝らした作品を制作し、「写実に基づく装飾画」という新しい時代の芸術を確立しました。

本展では、日本美術の伝統を継承しながら、独自の手法で近代的な新しい日本画の世界を切り拓いた福田平八郎の画業を紹介します。

みどころ

- ・初期から晩年まで、画業を一望する100件以上を一堂に展示
- ・重要文化財《漣》をはじめ《鯉》（皇居三の丸尚蔵館）、《花菖蒲》（京都国立近代美術館蔵）、《雨》（東京国立近代美術館蔵）など代表作が集結
- ・画家の瑞々しい感動を伝える写生帖や素描も多数紹介

開催概要

展覧会名 没後50年 福田平八郎

会期 2024年5月18日（土）～7月15日（月・祝） 休展日：6月17日（月）

時間 10:00～19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで（入場は閉館の30分前まで）

会場 大分県立美術館 3階 展示室B

観覧料 一般 1,400(1,200)円／大学・高校生 1,000(800)円

・（ ）内は前売および有料入場20名以上の団体料金。

・中学生以下は無料。

・大分県芸術文化友の会 ひびKOTOBUKI無料(同伴者1名半額)、TAKASAGO無料、UME団体料金。

・身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者（1名）は無料。

・学生の方は入場の際、学生証をご提示ください。

・「没後50年 福田平八郎」の会期中に限り、本展の半券提示でコレクション展を無料でご覧いただけます。

主催 公益財団法人分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館、毎日新聞社

共催 大分合同新聞社、OBS大分放送

後援 大分県、大分県教育委員会、NPO 法人大分県芸振、西日本新聞社、朝日新聞大分総局、NHK 大分放送局、エフエム大分、J:COM 大分ケーブルテレコム、大分経済新聞

特別協力 大阪中之島美術館

開会式およびメディア向け内覧会のお知らせ

2024年5月18日（土） 開会式 9:15～9:45 内覧会 9:45～10:30

ご参加いただける方はお名前、ご所属、参加人数、電話番号、E-mailをご記入の上、E-mailにて info@opam.jpまでお申込みください。

「没後50年 福田平八郎」WEBサイト

福田平八郎 1892年－1974年

福田平八郎は、明治25年（1892）2月28日、大分市に父・馬太郎、母・アン（安）の長男として生まれました。18歳のとき、苦手の数学で旧制大分中学校3年の留年が決まったことから画家の道を志し京都へ出ました。

京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校で学びながら文展に出品をつづけていた平八郎ですが、転機を迎えたのは卒業後の大正10年（1921）、第3回帝展に出品した《鯉》が特選をえた上に宮内省買い上げとなり、若くして京都画壇の寵児となりました。このとき「画家として一人前になってから」と保留にされていた谷口テイとの結婚を許されたため、鯉を描いて恋を得たと話題になったそうです。

そして昭和7年（1932）には第13回帝展に《漣》を出品します。当時はそのあまりの斬新さに賛否両論が巻き起こり、浴衣の模様のようなだといった批判も起こりましたが、後に平八郎の画風の特徴を示す代表作とされ、平成28年（2016）には重要文化財に指定されています。

戦後も新しい表現に挑戦し活躍をつづけるなか、昭和36年に文化勲章を受章し、大分市の第1号名誉市民にもなりました。この年を最後に官展への出品を止め、以後は画廊や百貨店の主催する小展覧会に自由な作品を発表するようになりました。

昭和49年3月8日に国立京都病院に入院、同月22日に気管支肺炎のため82歳でこの世を去りました。そのお墓は、京都鹿ヶ谷・法然院と大分市・西応寺にあります。

構成

第1章 手探りの時代

福田平八郎は、18歳のとき画家を志し京都に出て、京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校で絵を学びました。この時期の作品は、習画期ということもあり、作風に統一感がなく特徴をつかみにくいところがありますが、伝統的な日本画や同時代の新しい傾向の作品にも興味を示し、自らの進むべき道を模索していたあとがうかがえます。

《池辺の家鴨》 1916年 大分市美術館蔵 【後期展示】





《雨後》 1915年 京都市立芸術大学資料館 【後期展示】

第2章 写実の探究

京都市立絵画専門学校の卒業制作に悩んだ平八郎は、美学の教授・中井宗太郎に相談し、対象と客観的に向きあうことを決意します。こうして大正後半から昭和のはじめにかけての平八郎は、対象を細部まで観察し、徹底した写実表現を試みた作品を発表していきました。



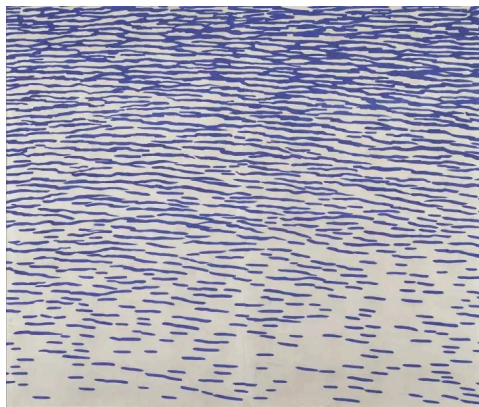
《双鶴》 1923年 京都国立近代美術館蔵 【後期展示】



《閑庭待春》 1925年 京都市美術館 【前期展示】

第3章 鮮やかな転換

平八郎は、昭和のはじめごろから、形態を単純化し、鮮烈な色彩と大胆な画面構成を特徴とする独自の装飾的表現へと向かいます。そして、昭和7年(1932)の第13回帝展に《漣》を発表し、日本画の新たな表現の可能性を画壇に問いかけてました。



《漣》 1932年 重要文化財
大阪中之島美術館蔵 【6/28-7/15展示】



《青柿》 1938年 京都市美術館蔵 【前期展示】

《竹》 1942年 京都国立近代美術館 【後期展示】

第4章 新たな造形表現への挑戦

第二次世界大戦後の美術界では、伝統的な日本画への批判が高まりましたが、平八郎は確固とした信念で日本画の表現の可能性を模索しました。こうして、徹底した自然観照によりながら、対象がもつ造形の妙を見事に抽出し、写実と装飾が高い次元で融合した傑出した作品がいくつも誕生しました。



《雲》 1950年
大分県立美術館 【通期展示】



《雨》 1953年
東京国立近代美術館蔵 【前期展示】

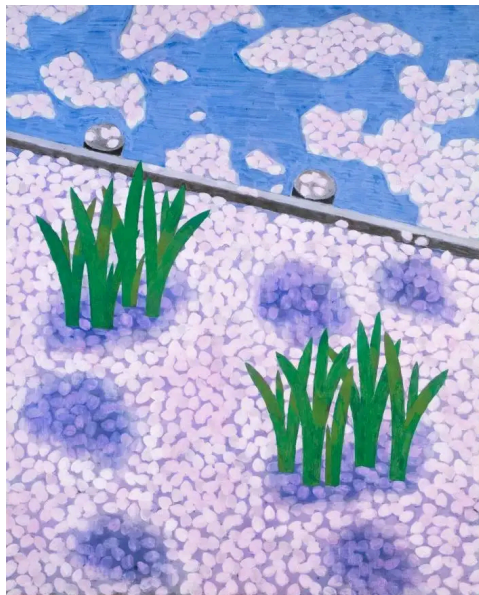


《鯉》 1954年
公益財団法人平木浮世絵財団 【後期展示】

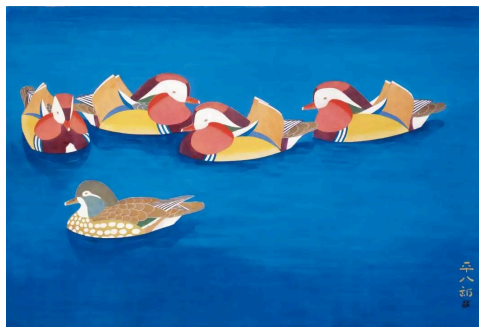
第5章 自由で豊かな美の世界へ

平八郎は、昭和36年（1961）を最後に日展への出品を止め、以後は、小規模な展覧会に心のおもむくままに制作した小品を発表します。作風は晩年になるにつれ、形態の単純化が進み、線も形も色彩も細部にとらわれない大らかな造形へと展開します。

福田平八郎《花の習作》1961年 京都国立近代美術館 【前期展示】



《鸚哥》 1964年 名都美術館 【後期展示】



《鶺鴒》 1965年頃 愛媛県立美術館蔵（武智光春コレクション）
【後期展示】

素描・写生帖

「写生狂」を自称した平八郎は、いつも写生帖を持ち歩き、対象と真摯に向き合い続けました。平八郎の瑞々しい感動を伝え、名作誕生の過程を示す貴重な写生作品を紹介します。



《素描(うす氷)》 1949年 大分県立美術館



《素描(花菖蒲)》 昭和10年代

大分県立美術館



《素描(紅白餅)》 1949年 大分県立美術館蔵

新発見資料 《水》 1935年頃【後期展示】

これまで存在を知られていなかった新発見の作品《水》を、本展で初めて公開します。《漣》よりも少し後の制作と考えられ、平八郎が追い求めた水の表現の一側面を示す貴重な作例です。



関連イベント

講演会

「半世紀前に山下少年が観た絵－福田平八郎のグラフィックなセンスについて」

講師：山下裕二（明治学院大学教授）

日時：2024年5月25日（土）14:00～15:30

会場：大分県立美術館 2階 研修室

参加費：無料（要申込・展覧会観覧券）

定員：80名

申込：当館HPの申込フォームからお申込みください。定員に達し次第、締切とさせていただきます。

スライド・トーク

「『写生狂』福田平八郎の画業」

講師：吉田浩太郎（大分県立美術館主幹学芸員）

日時：2024年6月22日（土）14:00～15:30

会場：大分県立美術館 2階 研修室

参加費：無料（要申込・展覧会観覧券）

定員：80名

申込：当館HPの申込フォームからお申込みください。定員に達し次第、締切とさせていただきます。

ギャラリートーク

学芸員が展覧会をご案内します。

日時：2024年5月18日（土）、6月8日（土・祝）、7月6日（土）

いずれも各日14:00～15:00

会場：大分県立美術館 3階 展示室B

参加費：無料（予約不要・要展覧会観覧券）

※各イベントの日程や内容は、都合により変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

Instagram フォトイベント「平八郎フォトグラフ」

絶妙なトリミングで写真との関連が指摘される平八郎。本展の開催に合わせてフォトイベントを実施しています。

毎月発表されるお題に沿った写真を撮ってInstagramに投稿してください。ご参加いただいた方から抽選で本展のオリジナルグッズをプレゼントします。

参加方法

- ・ [本展公式Instagramアカウント@heihachiro50](#)をフォロー
 - ・ 本展公式Instagramにて発表するお題が映った写真を撮影する
 - ・ お気に入りの写真が撮れたら「#平八郎50」「@heihachiro50」をつけてInstagramに投稿→参加完了
- * 参加にあたっての注意事項などは本展公式Instagramをご確認ください。

プレゼント内容

投稿作品から毎月抽選で3名様に本展オリジナルグッズなどをプレゼント（当選の発表はDMでの連絡をもって代えさせていただきます）

- ・ 投稿写真が本展公式Instagramで紹介された方にも本展オリジナルグッズなどをプレゼント（ストーリーへのリポストは対象外です。掲載依頼は本展公式InstagramアカウントからDMでご連絡します）

開催期間

2023年10月10日 - 2024年7月31日



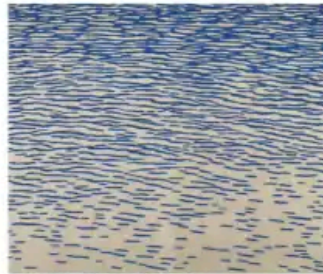
没後50年 福田平八郎 開催記念メニュー

水ようかんパフェ ¥800 (¥728)

コーヒーセット ¥1,100 紅茶セット ¥1,300



今回の展示に合わせ、生涯にわたり水の表現を探求した福田平八郎の作品にインスピレーションを受けたスイーツを作りました。この機会にぜひお召し上がりください。



©2023 平八郎 没後50年 開催記念メニュー

《カフェシャリテ》

営業時間：11:00 - 17:00（ランチタイム 11:00 - 14:00）

定休日：不定休（原則年中無休、臨時休業日あり）

Tel：097-578-7788

Fax：097-578-7787

E-mail：charite@aria.ocn.ne.jp

■お問合せ

公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館

学芸担当：吉田

広報担当：安東、山口

Tel: 097-533-4500 Email: info@opam.jp